

和歌山県立南紀はまゆう支援学校 学校運営協議会

令和5年度 第3回 【2月6日(火)】 10:00~11:30

出席者：委員10名 傍聴者 6名

会議の流れ

- ① 学校長あいさつ
- ② 新校舎見学(地域研修センター、宿泊訓練室など)
- ③ 学校評価
- ④ 第2回学校運営協議会各分科会の情報共有
- ⑤ その他
- ⑥ 各分科会

概要

【議論した主な内容】

- ② 新校舎の説明
 - 地域研修センター(教育相談室、聴力測定室等)
 - 宿泊訓練室
 - 各教室等
- ③ 学校評価について
 - 保護者と一致団結した安心安全な学校生活の提供に努めている。
 - 卒業後の円滑な支援に相談事業所として援助したい。
 - 広報誌のガイドライン作成と発行による地域への発信と周知活動が必要である。
 - 初任者を中心とした若手教員の育成とベテラン教員から若手教員への経験値の伝達が必要である。
 - 医療的視点と教育的視点での意見交換により、子どもたちの学校生活の充実を図りたい。
 - 肢体不自由教育、知的障害教育、聴覚障害児教育の融合を図り、専門性の維持・継承に繋げたい。
 - 保護者が学校とともに、学校生活を築いていける仕組みづくりが必要である。
- ④ 第2回学校運営協議会各分科会の報告
 - 〈学校安全〉
 - 災害対策について
 - ・学校で取り組んでいる内容について(訓練内容、マニュアル など)
 - ・避難所として活用方法について(避難する人の優先順位、医ケアの電気確保など)
 - ・最新の非常食のチェック
 - ・学校にある設備の使い方の把握(消火栓、非常電源、発電機など)
 - ・ハザードマップの確認
 - ・災害時のクールダウン部屋などの重要性
 - 〈地域連携〉
 - 田辺新庁舎でのカフェでの体験、実習について
 - ・人との関わりの機会確保(障害の程度を問わず)

- ・複数回の実施による経験
- ・イベントでの作品展示を検討中
- ・カフェで使用する食器を窯業班に依頼

⑦ 分科会

〈学校安全〉

○地震避難訓練の反省

○災害時の医療的ケアの注意点及び確認

- ・自家発電の使用説明書の確認
- ・医療的ケアに必要な医療器具や物品などのストックの確認
- ・情報の共有、安否確認
- ・怪我したときの対応
- ・ファーストミッションボックスの準備
- ・非常食としてとろみ剤の準備

・酸素ボンベや酸素濃縮器を使う生徒は、優先的に病院へ搬送

○ミキサー食の注入について

- ・今年度、胃ろうによるミキサー食注入の実践的研究を実施
- ・ミキサーで再調理し、粘度を調整し看護師による注入
- ・食育の観点から児童生徒に教育的効果
- ・口腔内ケアをすることで、誤嚥時のリスクの低下
- ・胃や腸のぜん動運動の促進
- ・ミキサー食の児童生徒の変化等を校内で共有する機会を設定

〈地域連携、キャリア教育〉

○田辺市新庁舎でカフェでの就業体験が可能。

(月から金曜日までの帯で働いてくれる方の確保ができた。5月7日の開庁に合わせて、カフェのオープンは困難であるが、設置と運営は決まっている。)

○田辺駅前のエンプラスの活用

- ・森川珈琲からの提案で、エンプラスカフェでの1週間貸し切りによる就業体験
- ・南紀はまゆうブレンドコーヒーを出して、窯業班がカップを制作する等の取組が可能
- ・卒業生が活躍している作業所にも協力を依頼
- ・エンプラスでのカフェでのブレンドコーヒーの提供と体験
- ・学校で可能な範囲で取り組み、梱包作業等は民間とともに協働作業

○上富田中学校フェスティバルや祭り等での販売活動

- ・作業班の制作した物品での協力は可能

〈研究〉

○R5年度の研修取組

- ・単元配列表の作成
- ・単元の前関係を確認しながら教科の中の単元配列表の「活用・発揮」の検証
- ・順序性、系統性、バランスを意識した計画の作成

○R6年度の研修取組

- ・学年・学部間の接続を考慮し、中核となる教科の系統性の検討
- ・各教科間の横断関係の検討

